

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 9 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100017		
法人名	(有) ウエルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ温品		
所在地	広島市東区温品7丁目13-23 (電話) 082-508-6188		
自己評価作成日	平成23年9月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100017&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は「グループ理念」の「生活づくり10か条」に基づき、入居者様の自立支援にスタッフ全体でケアに取り組み、また、具体的な環境整備を行い成果につなげている。中でも「Aユニット」「Bユニット」と形式上は分かれているが、開所5年目を迎え、入居者様全体の高齢化が進む中で、「18人を皆で支える」という気持ちで、スタッフ全体が一丸となり連携協力しながら入居者様支援を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人理念の「生活づくり10ヶ条」が、介護の基本であるとし、職員全員で実施するように取り組んでいる。「座る」を重視し、椅子の高さを入居者に合わせた高さにしたたり、トイレではしっかりと座れるように介助用品を充実させるなど、環境の整備を行っている。地域との関係については、近隣の福祉施設と共同で夏祭りを開催し、地域住民と交流を深め、また災害時にも協力して対応する体制を構築している。また、地域の町内会との関係も良好で、「防災無線」の設置や「防災パトロール」のベストを提供してもらい、入居者が小学生の通学を見守る取り組みも行っている。職員は、入居者の思いや意向を把握し、実現できるように努力しており、入居者の個展を公民館で開催するなど、夢を実現する試みが実践されている。また、家族からの要望があれば、看取りを行うような体制ができており、職員・家族・医療関係者が定期的に話し合いを行い、支援に取り組んでいる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を各ユニットのスタッフルーム内に掲示し、毎朝の朝礼時に全員で復唱している。また、実践目標を明確な行動指針とし、実際に環境整備やケア実践につなげている。	法人の理念を具体化した「生活づくり10ヶ条」を介護の根幹とし、毎朝、職員全員で、朝礼で復唱し確認している。また、事業所の理念を職員と共に作成している。事業所の理念とは別に、毎年の目標を決め行動し、年末には職員全員の感想を聞き、新目標を新たに設定し、取り組むようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方の協力を得て取り組む畑の収穫は今年も順調で、入居者様との収穫、メニュー・共同調理への反映させる事で生活の活性化に繋がっている。加えて今年度は、収穫物を、入居者様たちの掛け声で地域の皆様に販売する試みも行い大盛況交流の強化に繋がった。	近隣の福祉施設と共同で、夏祭りや餅つきを開催し、多くの地域住民や家族が参加し交流を深めている。今回の夏祭りでは、ホームで収穫した野菜を販売したり、入居者の作品を展示し、好評であった。また、ホームの畑では近所の人の手助けで野菜を栽培し、入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症アドバイザー」としての活動を「地域包括支援センター」と連携して継続している。見学者等も随時受け入れ機能説明等も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に一度の会議は定期的に継続しており、町内会長様より「地域防災の拠点としてグループホームに町内防災無線を設置しましょう」と声をかけて頂き設置する運びとなった。	運営推進委員会の出席者は、地域代表や行政の担当者だけでなく、委員会を活性化させるために、消防署の担当者を招いて、防災の話聞く試みをしている。町内会長の提案で、「防災無線」を設置することができたり、ボランティアの活用についてなど、毎回活発な意見交換がされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年も一件「認知症サポーター養成講座」に対する協力をを行った	地域包括支援センター主催の研修会で講師をするなど、積極的に協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。スタッフ間での「身体拘束廃止委員会」の活動は継続しているし、関連する内外研修も実施・参加しこれを実践するよう皆で努めている。</p>	<p>身体拘束については、職員は熟知し、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、「身体拘束廃止委員会」を定期的に開催し、日常のケアを振り返っている。外部研修に参加して得られた知識を職員に通達し、共有するようにしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	上記に同じ		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	内部研修の学習題材として取り上げ、スタッフ全体で学習している。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	左記のような場合には、必ず前もって書面をもつての周知、個別質問への対応を行い、また年2回の「家族会」の場を周知徹底の場に活用している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	上記家族会は開所以来夏・冬の2回の定期開催を継続しており、その場での意見・要望は運営に反映させるよう心がけている。	家族会は、年に2回夏祭りとクリスマス会を兼ねて開催され、毎回多くの家族が参加し、意見交換をしている。その中で、個別外出の機会を増やしてほしいとの要望があり、職員が同行し、入居者と買い物や喫茶店に行ったりと、個別の対応を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月末に定期的実施するケアカンファ・ミーティングは継続している。この場での意見・提案はケア等に反映させている。また定期的な面談も行っている。	月に1回、職員との話し合いを設け、介護に関することや環境整備などについて検討している。その中で、入居者の重症化に伴い、車いす対応のトイレに改修したり、歩行に危険があった床の張り替えをしたりと、職員からの意見が反映され改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度初めには「チャレンジシート」を用いてスタッフ個々の目標設定を行ってもらい、達成に向けての助言や提案を面談の機会を設けて行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	上記の記述を基本とし、法人内・外での研修において知識・実践共に事業所内で働きながら習得していける環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループ内の他グループホームとの交流の場として合同の学習会や研究発表会等を継続して行っている。「スタッフ交換研修」も実践している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず事前面接を行い、御家族やご本人のお話を聞いた上で、入居当日に1ヵ月程度の暫定ケアプランを作成し、グループホームに慣れて頂くための支援を行い、御家族本人様との関係構築を図る事を継続して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記に同じ、御家族面会の際に随時入居者様の状態について報告し、その都度御家族の思い、要望なども聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記に同じ 入居者様に対してもとにかく「話を聞く」という姿勢で接し、様々な可能性について一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「入居者様と共にある」という感覚をスタッフは常に持っている。スタッフが出勤時「よろしくお願ひします」の挨拶に対し、入居者様も「今日もがんばってね」帰宅時「失礼します」の声掛けに「気をつけて」と返してくれるほどの関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	年2回の「家族会」では積極的な意見交換が行えており、こちらの支援方針についても理解いただけており、相互の連携が確認できている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会希望について随時受け入れ、旧知の関係やなじみの方との関係を継続するように努めている。	家族や本人からの要望で、ふるさと訪問や墓参りを家族と協力し支援している。また、馴染みの人が面会に来られた際には、自室でゆっくり話ができるようにし、外部からの友人などの電話に関しては、本人とゆっくり話をしてもらうように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	スタッフが間に入って関係をつないだり食事作りや、食器準備、チームレクなど、共同で連携して行う作業を入居者様全体で行いながら、入居者同士の関係強化を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された御家族からお便りや、野菜等のご寄付を頂いたりする機会がある。近隣で出会った際も、気さくに声をかけて頂ける。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前事前面接に伺い、本人の生活空間を拝見し、グループホームの居室に暮らしやすい空間を創出するように努めている。	日常の会話の中から、本人の意向を把握し、入居者の思いや意向を実現するように取り組んでいる。その中で、入居者がホームで描いた絵を多くの人に見てもらいたいとの要望から、近所の公民館で個展を開催し、本人の夢を実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	専用のアセスメントシートを用いて把握している。御家族に記入して頂くシートもあり、これを「基本情報」とし細部まで確認できる状況を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者個々に「生活状況記録」「個別記録」という暮らしの現状把握のため日々記入するシート2種類を用いて継続して把握できる仕組みがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者個々にケア担当介護計画とモニタリングの内容について月に1度のカンファレンスを開いて話し合い、定期的には3ヵ月・6ヵ月という周期で御家族に説明している。</p>	<p>入居者一人ひとりに担当を決め、ケアプランの原案を作成し、ケアカンファレンスで職員全員で話し合いを行いケアプランを作成している。その後、最終的には、計画作成者が修正しケアプランとしている。また、モニタリングについても、職員全員で取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>できている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>そのように心がけているがまだ充分ではない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>公民館で入居者の絵画の個展を行ったり、グループホームで収穫した物を地域の方に振舞ったりした。この事で入居者様たち各々の活性化にも繋がった。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣の医療機関と医療連携体制を組み、必要に応じての受診通院の実施、またグループ主治医の往診を週1回、定期健康診断年1回などを継続している。</p>	<p>週に1回主治医が往診し、入居者の健康管理を行っている。それ以外に近隣の医療機関に受診し、状況に変化があれば、看護師が主治医に連絡し対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な訪問看護が継続して受けられている。看護師との随時の報・連・相もでき、しっかりと入居者の支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当グループホームは医療法人グループの一員であり、入退院時の関係はしっかり取れている。加えて近隣の入院応需の総合病院（JR鉄道病院）とも医療連携体制を組み普段から関係構築も図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の意向を吸い上げる書面や、重度化した際の指針等も作成しており、これに沿ってスタッフで連携して支援する方向を定めている。	事業所として看取りを行う方針である。家族からの要望があれば、終末期ケアを行う。その際には、ターミナルケアカンファレンスを週に1回、家族・看護師・職員が参加して話し合いを行い、職員全員で情報を共有し、支援していくよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急救命研修や事故防止研修等を法人内外において受講するような体制を作っているが、実践力をつけるという点においてははいま少し取り組む必要があると感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	別法人ながら隣にある「特別養護老人ホーム」は緊急時の連携を確約して下さっており心強い。加えて、運営推進会議において町内会長様より「防災無線」の設置を提案して下さい、消防署を通じて拠点として設置を許可して頂いた。	災害時には、近隣福祉施設と協力を行う体制が整っている。町民からの提案で「防災無線」を設置し、地域の方と連携して対応する体制ができている。	今後は、地域の方と一緒に、消防署の立ち会いのもとに、避難訓練を実施し、災害に備えることを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全スタッフがそのように心がけ行動しているつもりだが「これがベスト」という対応は存在しないと思う。常に自らを律することを怠らず入居者個々に接していきたいと思う。	職員は、介護上での入居者のプライバシー保護については十分に注意を払っている。しかし、排泄時のプライバシーや個人情報を漏らさないこと等については、職員会議などで、職員のさらなる意識を高め、徹底していくように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全スタッフがそのように心がけているつもりだが、時としてスタッフ本意になる可能性も否定できない。スタッフ個々の意識を常に高く持って支援に当たりたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	上記に同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時にはお化粧品や身だしなみ、衣類のコーディネートをスタッフと共に行うよう心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	以前自宅で作っておられた献立を入居者様に作って頂いたり、皆で餃子を作ったり入居者個々の意見がメニューに反映される仕組みを作っている。	朝・昼食については、職員が1週間分の献立を決めるが、夕食に関しては、入居者の希望を聞きメニューを決め、入居者と共に買い物に行き、夕食を作るようにしている。季節の行事食についても、入居者の意見を聞き、毎年のおせち料理は職員と入居者が協力して作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調維持のため、水分や食事量に制限のある方もおられるが、スタッフが日々の摂取量のトータルを計算しながら、適性を長期にわたって維持確保できるチーム力がある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々に応じた毎食後の口腔ケアが維持できている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄自立への支援を継続できている。</p>	<p>ケアプランの中で、排泄自立の目標がある入居者については、ケアカンファレンスで実施状況を確認し、できていない場合については改善に向けて方法を検討している。紙パンツから布パンツへ、またパットの形状について検討を重ね、おむつを外す取り組みを行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入居者個々の状況によって回数的には100%希望に添えない状況だが、個々が安楽に入浴できる方法等については絶えずスタッフで検討しながら取り組んでいる。</p>	<p>重症化した入居者でも入浴を楽しんでもらえるように、設備の改修を行い対応している。また、仲のよい入居者が一緒に入浴を楽しんでもらうように実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	そのようにできるよう努力して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬についての重要性は全スタ ッフ個々が認識している。量の 増減・服薬目的については、変 化のあった都度把握するよう な習慣ができています。また服 薬ミスを防ぐため服薬前の、声 だし確認を継続している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	アセスメントの徹底により本人 の趣味趣向を把握し、日々のア クティビティに生かし、集団中 でもなるべく個々が主役を務め るような場を創出できるよう考 えながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	頻度としては多くないができる 限り、本人、御家族の希望に沿 うよう努力している。	入居者が重症化しているため、 全体としての外出は困難になり 、個別対応の外出を支援してい る。近隣のスーパーでの買い 物や外食などの外出支援を行っ ている。時には、防犯パトロー ルのベストを着て、登下校時に 、地域の一員として小学生の 通学を見守ることも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	基本的には個人の金銭をお預か りしていないが、本人が望む購 入物があれば、御家族等に相談 した上で「個人立替」という形 を取り、スタッフと一緒に購入に 出向く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族やご友人からの電話が入った際には、基本的に本人に乙な議している。また届いた手紙については入居者様と一緒にお返事を書くようにしているし、家族への近況報告も定期的を送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングに絵を飾ったり、季節の飾り付けをしてできるだけ工夫している。	リビングでは、入居者に曲を選んでもらい、入居者に馴染みのある音楽を流し楽しんでもらうような試みを実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	できる限り工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や調度品は本人の慣れ親しんだ物を持ち込み落ち着く空間を作れるよう支援している。	自室が今までの自宅と同じ空間になるように、自宅にあった思い出の品を持ち込んでもらいやすらぎの空間にするように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	運動のための手すりを各階に設置したり、車椅子の方が残存能力を活用してトイレに行けるよう環境整備をしたり、個々にあわせた椅子を作成したりして自立生活への支援をしている。		

V アウトカム項目(Aユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(Bユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ温品

作成日 平成 23年 11月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策の実行の項において地域との防災体制に甘さがある	地域の方と一緒に、消防署立会いの下に避難訓練を実施する	運営推進会議時を活用して左記避難訓練を実施する	4ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。